

愛知医科大学学報



先進の医療を
人と社会と未来へつなぐ

この地に根ざして、50年

50年間、地域に根ざした大きな木となるよう
地域医療や臨床研究に加え、医療従事者の
教育に力を注いでまいりました
これからもその枝を伸ばすとともに
先進の医療を人と社会と未来へ、
つないでいきます



＝ 創立50周年記念特集号 ＝
2022. 11月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

| | |
|------------------|----|
| 創立50周年記念式典挙行 | 2 |
| 50周年記念事業実行委員会の設置 | 8 |
| 50周年記念事業の策定 | 8 |
| 50周年記念事業募金 | 11 |
| 記念ロゴマークの制作 | 14 |
| 記念サイトの開設 | 14 |
| PR広告の掲載 | 14 |
| 写真集の発行 | 15 |

医療の未来をひらく新しい医科大学を目指して これからも挑戦し続ける

愛知医科大学創立50周年記念式典挙行

愛知医科大学は、「患者からも、地域からも、発展途上国からも頼りにされる『タクマシイ』医師を養成する」という初代理事長・故太田元次の熱い思いのもと、「新時代の要請に応え得る医師を養成し、あわせて地域住民の医療に奉仕すること」を『建学の精神』の主眼点として昭和47年に医学部のみの単科大学として開学しました。その後、昭和55年に大学院医学研究科、平成12年に看護学部看護学科、平成16年に大学院看護学研究科が設置され、2学部・2研究科を擁する医系大学へと発展しました。

本学が無事に50周年を迎えることができたことは、多くの関係者の方々のご尽力・ご支援によるものであり、その感謝の意を表し、令和4年11月3日（木・祝）の午前10時30分から名古屋観光ホテルにおいて、「愛知医科大学創立50周年記念式典」が挙行されました。各界からのご来賓を始め、学内外から約460名の方々にご参加いただきました。

◆ 感染対策に配慮し式典開催



式辞を述べる祖父江理事長・学長

秋の変わりやすい気候にもかかわらず、11月3日（木・祝）はあたたかも式典を祝うかのような秋晴れに恵まれ、政財界、教育界、医療界などから多数のご来賓にご臨席いただいて記念式典が行われました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に十分に配慮しつつ、当初は、式典と祝賀会の開催を予定しておりましたが、式典（第1部・第2部）のみの開催としました。



発起人代表挨拶 加藤元理事長・学長

式典（第1部）は、大学を紹介するオープニングムービーの上映で幕を開け、東海テレビ放送の浦口史帆アナウンサーの司会のもと、初めに大学を代表して、祖父江元 理事長・学長が式辞を述べた後、本式典の発起人を代表して、本学元理事長・学長であり公益財団法人大幸財団理事長の加藤延夫様から挨拶がありました。

続いて、関係各界のご来賓の皆さまから本学に対する期待を込めたご祝辞を頂戴致しました。また、式典開催に当たり、多くの関係機関等の皆さまから頂戴しました祝電について、時間の関係上、一部の祝電が披露されました。



司会 浦口アナウンサー

ご来賓ご祝辞

- ・永岡桂子文部科学大臣 代読
西條 正明 様（文部科学省大臣官房審議官（高等教育局及び科学技術政策連携担当））
- ・大村 秀章 様（愛知県知事）
- ・小川 彰 様（一般社団法人日本私立医科大学協会・会長，学校法人岩手医科大学・理事長）
- ・松尾 清一 様（国立大学法人東海国立大学機構・機構長）
- ・柵木 充明 様（公益社団法人愛知県医師会・会長）



文部科学省大臣官房審議官 西條様



愛知県知事 大村様



日本私立医科大学協会会長 小川様



東海国立大学機構長 松尾様



愛知県医師会会長 柵木様

◆ 記念講演

「世界を照らすLED」

名古屋大学・教授 天野 浩 様

第1部の締め括りは、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学教授の天野浩先生による「世界を照らすLED」と題した記念講演が行われました。

天野先生は、故赤崎勇先生、中村修二先生とともに、LED普及のカギを握る「青色発光ダイオード」の実現に貢献され、平成26年にノーベル物理学賞を受賞された我が国の知の頂点に立たれる研究者の一人であり、式典開催のご案内時から、記念講演への期待の声は多く寄せられておりました。当日は天



講演する天野先生

野先生の興味深く、有益な講演内容に参加者は聞き入っていました。

◆ 式典（第2部）

式典第2部では、笠井謙次医学部長の挨拶の後、衆議院議員の丹羽秀樹様、衆議院議員の鈴木淳司様から心温まるご祝辞を頂戴致しました。



挨拶する笠井医学部長



衆議院議員 丹羽様



衆議院議員 鈴木様



佐藤様による庄巻の演奏

◆ 記念イベント

この後、記念イベントとして、本学の校章のモチーフである「橘の木」の記念植樹のセレモニーが行われ、各界のご来賓の皆さまにご登壇いただき、橘の木への土入れのセレモニーが行われました。この橘の木は、後日、医心館前に植えられる予定です。



記念植樹の様子

記念植樹ご登壇の皆さま

(写真左から)

- ・丹羽 秀樹 様 (衆議院議員)
- ・笠井 謙次 (愛知医科大学・医学部長)
- ・佐々木 健 様 (東海北陸厚生局・局長)
- ・杉山 直 様 (国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学・総長)
- ・三宅 養三 様 (学校法人愛知医科大学・前理事長)
- ・西條 正明 様 (文部科学省大臣官房審議官 (高等教育局及び科学技術政策連携担当))
- ・祖父江 元 (学校法人愛知医科大学・理事長・学長)
- ・小川 彰 様 (一般社団法人日本私立医科大学協会・会長, 学校法人岩手医科大学・理事長)
- ・郡 健二郎 様 (公立大学法人名古屋市立大学・理事長)
- ・柵木 充明 様 (公益社団法人愛知県医師会・会長)
- ・星長 清隆 様 (学校法人藤田学園・理事長)
- ・鈴木 淳司 様 (衆議院議員)
- ・道勇 学 (愛知医科大学病院・病院長)
- ・吉田 一平 様 (長久手市長)

続いて、同窓生を代表して、愛知医科大学医学部同窓会会長であり愛知医科大学医学部教授の福澤嘉孝先生から挨拶があった後、大学の歴史と現在を紹介する「記念動画」が上映されました。



挨拶する福澤会長

最後に、祖父江元 理事長・学長から、これまでの感謝とともに、今後の更なる発展に向けた決意を込めた謝辞が述べられ、午後1時過ぎに式典は盛会裡に終了しました。



記念動画

◆ 祖父江理事長・学長式辞

本日は、愛知医科大学創立50周年記念式典に当たり、ご多忙のところ各界のご来賓を始め、多くの皆さまのご出席を賜り、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

本学が無事に50周年を迎えることができ、教育・研究・診療に対し、高い評価をいただくまでに成長できましたことは、多くの関係者の方々のご尽力・ご支援によるところが誠に大きいと存じます。特に本日ご列席の皆さま方のご理解とご支援の賜物であると、衷心より厚く御礼申し上げる次第でございます。誠にありがとうございます。

本学は、医学・医療の発展と地域医療への高い貢献という志のもと、昭和47年に開学致しました。同年4月11日の第1回入学式における初代橋本学長の告示では、「『愛知医科大学の学風は何か』と問はれば、それは新入生の諸君らによって作られるものであり、それが後輩に受け伝えられ作られるものでありましょう。それだけに諸君への期待は誠に大であり、その自覚を持っての活躍を期待する」と述べられています。

この開学以来、これまでに約4,500名の医師と約2,000名の看護師を社会に送り出すことができ、社会の要請に応える活躍ができてきていることは、初期の志が受け継がれてきた成果であると誠に嬉しく思っ

ております。

さて、この50年で大学や病院を取り巻く環境は大きく変わりました。社会情勢が目まぐるしく変わる中で、先人が築き上げてきた愛知医科大学を更に発展させ、地域や社会のニーズに応じていくには、スピード感のある変革が必要であります。

本日お配りしておりますパンフレットにもございますように、本学では教育・研究・診療の更なる充実を図るため、種々の改革進めているところでございますが、特に50周年記念事業として、10項目の取り組みを進めております。昨年4月に岡崎市に「愛知医科大学メディカルセンター」を、本年7月に名古屋新栄に「愛知医科大学眼科クリニックMiRAI」を開院しましたが、これらは、大学ならではの質の高い医療を提供して地域とともに生きる中核病院として、また、若い医師を育てる教育病院としての活動を目指しております。

また、研究面では、愛知医科大学加齢医科学研究所、日本造血細胞移植データセンター、神経iPS研究センター、日本ALSコンソーシアムなどを始めとする世界をリードできるビッグデータ・バイオリソース蓄積をベースに国際的な共同研究が進んでいます。

また、この50周年を契機として、世界を見据えた教育・研究活動と卓越した人材育成の拠点となるべ

く「先進医療研究棟構想」をスタートしております。社会から評価され選ばれる医療人や研究・教育者の育成，安心・安全の信頼できる先進医療の提供，地域とともに歩む医療の推進など，時代の変化を先取りする柔軟な変革・仕組みづくりに積極的に挑戦し，50周年のスローガンにもなっておりますが，先進の医療を人と社会と未来へつないでいきたいと考えております。

どうか今後とも皆さま方には愛知医科大学をご支援賜りますようお願い申し上げます，私の式辞とさせていただきます。誠にありがとうございました。

◆ 祖父江理事長・学長謝辞

本日は，愛知医科大学創立50周年記念式典に，ご多忙の中，多くの皆さまにご臨席賜りまして，誠にありがとうございました。また，関係各界の皆さまから多くの激励のお言葉を頂戴致しましたこと，重ねて御礼申し上げますとともに，改めて身の引き締まる思いであります。誠にありがとうございました。

先人たちがその叡智と努力で作りに上げてきた愛知医科大学の50年に感謝の意を表し，本学の今後の発展に向けて，「新時代の要請に応える医療人を養成し，更に地域の医療に奉仕する」という建学の精神に根差し，新しい医療の在り方を追求し，卓越した人材の育成を目指していきたいと考えております。

さて，本日の先生方のお言葉に，「医療は今後ますます変わっていく」とありましたが，今後の医療がどうあるべきなのかということの内容が問われております。一つは疾患の予防だと考えております。今までの医療は，発症してからの治療でしたが，この発症そのものを予防するには，どうするかが重要なテーマになると存じます。「健康であるうちにも，病気の芽は出ている」という東洋の医療のコンセプトで「未病」というものがありますが，これをいかに早く発見し，病気の発症そのものを抑えていくかが今後問われていくのではないかと考えております。

二つ目は，医学研究の方法そのものの変化です。医学研究もビッグデータを駆使し，そこから単独のデータでは難しかったことを発見していくという流れが出てきており，これも大きな今後の変化だと思っております。

三つ目は，疾病構造の変化に対する対策です。パーキンソン病を例に出しますと，30年ほど前まではむしろ珍しい病気と言われておりましたが，現在，神経内科の病棟はパーキンソン病の患者さんで溢れております。また，パーキンソン病は進行性の病気ですが，今は医療が進歩したことで逆に20年以上パーキンソン病を患っている方が大変多くいらっしゃるという状態であります。

他の多くの疾患も同様で，以前は救えなかった命が急性期治療で救えるようになった一方，病気と共に生活する時間が延びております。長い時間軸で，地域との循環型医療を支えていく体制作りが必要だと考えております。

今後，21世紀における新しい医学医療の在り方で，変えないといけない部分と変えてはいけない心の部分があると考えておりますが，変化のためにはどういう形作りを実践していくべきかということを考えている次第でございます。

どうか今後とも皆さま方には愛知医科大学をご支援賜りますようお願い申し上げます，私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

創立50周年記念事業への取り組み

50周年記念事業実行委員会の設置

創立50周年を迎えるに当たり、記念事業の実施を検討すべく、祖父江元 理事長・学長を委員長として、学内役職者等に学外者を加えた総勢21名の委員、並びに関係事務部門による「創立50周年記念事業実行委員会」が設置されました。

令和3年9月1日（水）に開催された第1回実行委員会では、記念事業の内容や役割分担等が議論され、令和4年度の創立50周年に向けて各種事業の取り組みが開始されました。

50周年記念事業の策定

教育・研究・診療の更なる充実を図るため、創立50周年記念事業の一環として計画している記念事業10項目が策定されました。

記念事業10項目

- ① メディカルセンター開設（令和3年4月）
- ② 日本造血細胞移植データセンター移転・開設（令和4年1月）
- ③ 眼科クリニックMiRAI開設（令和4年7月）
- ④ 医心館セミナー室拡充
- ⑤ スターボックスの誘致（令和4年9月）
- ⑥ レストラン「オレンジ」の改修
- ⑦ リハビリテーション医療の充実
- ⑧ がん医療の推進
- ⑨ 看護学研究科博士課程設置構想
- ⑩ 先進医療研究棟構想

① メディカルセンター開設

2次救急から慢性期までの幅広い患者さんを対象に、大学分院ならではの質の高い医療の提供を通して、地域を守り共に生きる中核病院を目指します。また、若い医師らを育てる「教育病院」の機能も充実させていきます。

② 日本造血細胞移植データセンター移転・開設

本学と一般社団法人日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）との間で連携・協力に関する協定書を締結し、連携大学院「造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座」を設置。令和4年1月には日本造血細胞移植データセンターを本学2号館に移設・開設しました。

③ 眼科クリニック MiRAI 開設

開設から38年を迎えたメディカルクリニックは、総合的な診療体制等の抜本的な見直しを行いました。株式会社メニコンとの産学連携寄附講座（近視進行抑制）と眼科日帰り手術ラボの設置を中心とした、時代が求める治療・臨床研究の拠点として生まれ変わりました。

④ 医心館セミナー室拡充

医心館は学習用施設として利用されており、特に国家試験を控えた学生のグループ学習に必要なセミナー室が設置されています。今後更なる学習環境の向上を目的に、セミナー室の拡充を行います。

⑤ スターバックスの誘致

人と人、人と病院、人と自然をつなぐ。立石池やその周辺に広がる四季折々の風景を眺めながら、学生や教職員、更に地域住民の方々の交流や憩いの場に幅広く利用いただくことを目指していきます。



⑥ レストラン「オレンジ」の改修

ガラス張りの明るく開放的な雰囲気のレストラン「オレンジ」。これまでは学生の食事会場として、また学生同士の憩いの場として利用されてきましたが、食事以外の時間は自習の場として利用できるよう大規模な改修工事を進めます。

⑦ リハビリテーション医療の充実

超高齢社会におけるリハビリテーション医療の社会的ニーズに応えるため、令和3年7月にリハビリテーション医学講座を開設。生活機能と障害の診断、治療技術において基礎から最新技術に至るまでの実践医療・教育に取り組んでいます。

⑧ がん医療の推進

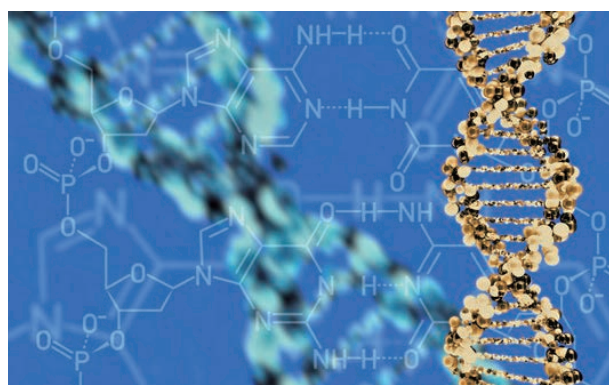
令和元年10月に「がんセンター」を設置。院内にある多数のがん診療部門を統括する横断的な組織として、診療科の枠を超えた多職種での連携・サポート等を行うことで、がん患者受入倍増計画を推進していきます。

⑨ 看護学研究科博士課程設置構想

博士課程（PhD コース及び DNP コース：Doctor of Nursing Practice）を設置し、看護学分野の研究者や高度な看護実践を行う診療看護師や専門看護師の指導者を養成します。日本でも数少ない DNP の養成に挑むことで、我が国における高度看護実践のトップランナーを目指します。

⑩ 先進医療研究棟構想

「世界を見据えた教育・研究活動の充実と発展」「診療・研究・教育を担う卓越した人材の育成」「地域医療・地域貢献の促進」などの五つの目標を掲げ、その実現に向けたプロジェクトを発足させていきます。



50周年記念事業募金

創立50周年記念事業募金 募集要項

募金目的 教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業資金

目標金額 10億円

募集金額 個人1口1万円，法人1口5万円

※できましたら，多数口のご協力をお願い致します。

募集方法 ①専用の払込取扱票による金融機関窓口でのお振込み

（払込取扱票をご希望の方は資金・出納室寄附金担当までお問い合わせください。）

②インターネットのお申込みによるクレジットカード，ペイジー等でのお振込み

税制優遇措置 所得税（法人税）の税額控除が適用される対象法人としての証明を受けております。

税制手続きにより寄附金控除が適用されます。



お問合せ先

学校法人愛知医科大学 法人本部資金・出納室寄附金担当

TEL (0561) 63-1062 FAX (0561) 62-4866

E-mail : sikin@aichi-med-u.ac.jp

愛知医大 募金



創立50周年記念事業募金寄附者ご芳名(敬称略)

創立50周年記念事業募金（創立50周年に向け先行した教育・研究・診療の基盤整備事業募金含む）にご協力いただき，心より御礼申し上げます。

ご寄附をいただいた皆さまへ深く感謝の意を込めまして，ご芳名を掲載させていただきます。

（平成30年4月1日～令和4年10月31日現在）

募金総額：738,656,053円 募金者数：個人 554件，法人・団体 145件

<個人>

| | | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 青木 重久 | 青鹿 昌純 | 青山 邦彦 | 青山 俊博 | 青山 正寛 | 秋山 邦夫 | 秋山 征巳 |
| 浅井 和子 | 朝井 規仁 | 浅井 紀裕 | 浅井 博行 | 浅野 公造 | 浅野 貴徳 | 足立 義一 |
| 渥美 一成 | 天池 要治 | 天野 哲也 | 鮎川 浩志 | 有木 玄 | 有馬 隆紘 | 有賀 雅和 |
| 安藤 靖 | 飯田 章人 | 飯田 和子 | 池田 亜紀 | 池田 樹一 | 石川 厚子 | 石川 俊一 |
| 石澤 義也 | 石島 正嗣 | 石橋 宏之 | 泉 雅之 | 井田 雅章 | 市川 嘉一 | 市野 光太郎 |
| 伊藤 恵一 | 伊藤 壽美 | 伊藤 后子 | 伊藤 恭彦 | 犬丸 達也 | 井上 順子 | 今井 紀子 |
| 今井 裕一 | 今枝 佑輔 | 岩田 裕次 | 岩船 徹雄 | 上野 隆彦 | 宇佐美 覚了 | 宇佐美 公子 |
| 牛田 享宏 | 内田 稔也 | 内山 弘子 | 内海 眞 | 戎井 浩二 | 老沼 和弘 | 大須賀 友晃 |
| 太田 浩敏 | 大野 和子 | 大野 則和 | 大橋 由政 | 岡 義隆 | 岡川 友子 | 岡川 行重 |
| 岡澤 光修 | 岡田 永三 | 緒方 昌平 | 岡田 太郎 | 岡野 敏明 | 岡野 七重 | 岡村 憲樹 |
| 岡本 英丈 | 岡本 雄一 | 岡本 利一 | 小川 麻子 | 小川 徳雄 | 奥田 直樹 | 奥永 知宏 |
| 奥山 誠 | 長田 和久 | 折本 有貴 | 海原 彰二 | 各務 秀明 | 笠井 謙次 | 梶浦 克之 |
| 春日井 邦夫 | 春日井 孝 | 勝野 正英 | 加藤 浩二 | 加藤 純子 | 加藤 豊文 | 加藤 宏泰 |

| | | | | | | |
|--------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 加藤 正治 | 加藤 雅通 | 加藤 唯 | 加藤 庸子 | 加藤 龍寿 | 金谷 雄生 | 金桶 陽 |
| 神谷 英紀 | 神谷 美帆 | 川合 尚 | 川崎 恭典 | 川谷 陽子 | 川本 恵子 | 河本 博喜 |
| 神戸 康秀 | 完山 秋子 | 完山 紘平 | 岸川 典明 | 岸本 知樹 | 木原 幹洋 | 金 節子 |
| 木村 光利 | 木村 行宏 | 金 日成 | 久野 健一 | 久野 里佳 | 久保田 雅博 | 黒川 道雄 |
| 黒木 玲子 | 小出 詠子 | 幸野 照 | 小島 順司 | 小杉 将仙 | 小塚 聡 | 小天 和也 |
| 後藤 雄州 | 後藤 八千代 | 後藤 淳 | 後藤 英之 | 小西 健一 | 小林 加奈子 | 小林 徹 |
| 小林 博文 | 小林 史樹 | 小林 良太 | 小森 直之 | 小森 睦美 | 近藤 忍 | 近藤 瑞枝 |
| 佐井 紹徳 | 齋藤 隆司 | 齋藤 庸男 | 齋藤 照男 | 西塔 誠幸 | 才村 弘也 | 三枝 純一 |
| 三枝 園子 | 酒井 有理 | 榊原 綾子 | 坂巻 隆男 | 坂本 真理子 | 佐々木 拓次 | 佐々木 裕茂 |
| 佐々木 誠人 | 佐々木 祐一郎 | 佐藤 千代香 | 佐藤 元彦 | 佐藤 良幸 | 實政 裕 | 塩見 利明 |
| 篠原 康一 | 篠原 早紀 | 柴野 英典 | 柴山 始久 | 島田 孝一 | 嶋吉 敏文 | 志水 明浩 |
| 清水 國樹 | 清水 宗久 | 清水口 彩加 | 杉本 泰洋 | 鈴木 幸司 | 鈴木 伸 | 鈴木 信吉 |
| 鈴木 泰子 | 住田 香澄 | 千田 憲一 | 千田 弘子 | 宗宮 教壹 | 園田 和生 | 祖父江 元 |
| 高瀬 かね子 | 高田 勝 | 高田 麻哉子 | 高橋 佳子 | 高橋 進 | 高橋 孝子 | 高橋 知生 |
| 高橋 靖弘 | 高見 昭良 | 高村 祥子 | 高柳 友子 | 高柳 泰世 | 武居 敦英 | 竹田 幸祐 |
| 武田 千代子 | 竹原 成浩 | 竹本 昌三郎 | 多々内 友美子 | 田中 一宇 | 田中 信彦 | 田中 英成 |
| 田中 正彦 | 田中 元子 | 田中 元也 | 田邊 和彦 | 田邊 直樹 | 玉田 としこ | 塚 晴俊 |
| 番井 利恵 | 塚本 芳春 | 對馬 伸晃 | 都築 豊徳 | 都築 史恵 | 土井 浩史 | 土居 聡 |
| 堂森 丈正 | 遠山 美智子 | 富樫 孝 | 土岐 八雄子 | 富田 幸嗣 | 富田 裕一 | 中川 洋 |
| 中川 喜博 | 中島 隆世 | 中島 鉄夫 | 中嶋 博久 | 中筋 名保恵 | 仲谷 宗裕 | 長縄 三千代 |
| 中西 照明 | 中野 久美 | 中野 正吾 | 中村 悟己 | 中村 誠 | 中山 貴子 | 成田 篤彦 |
| 成田 憲治 | 西井 裕和 | 西田 恒紀 | 西塚 麻代 | 西村 基 | 西山 耕 | 野場 万司 |
| 長谷川 恒雄 | 羽根田 雅巳 | 早川 千代子 | 林 和子 | 林 清博 | 林 博子 | 林 基志 |
| 林 嘉輝 | 葉山 国城 | 原 遠 | 肥後 夏月 | 樋上 啓子 | 樋上 泰成 | 平野 達也 |
| 廣川 光之 | 廣瀬 真仁 | 廣瀬 善道 | 深井 健一 | 深田 大 | 福井 高幸 | 福岡 孝泰 |
| 福澤 嘉孝 | 福智 寿彦 | 藤田 守彦 | 藤林 孝義 | 藤本 保志 | 藤原 祥裕 | 二神 正文 |
| 二村 眞秀 | 古井 景 | 古岡 邦人 | 古川 洋志 | 古田 朋子 | 細川 好孝 | 堀田 幸嗣 |
| 堀部 博 | 前田 一成 | 牧野 吉秀 | 増岡 尚子 | 間瀬 武則 | 町田 智美 | 松井 康哲 |
| 松尾 高嗣 | 松岡 哲平 | 松平 仁 | 松本 拓也 | 松本 芳子 | 松山 英里子 | 松山 華奈美 |
| 三浦 久美子 | 三嶋 廣繁 | 水谷 正子 | 水野 昌平 | 水野 真理 | 水本 強一 | 三岡 裕貴 |
| 箕浦 恵 | 宮下 直人 | 宮地 茂 | 宮本 知 | 村上 恒久 | 村松 忠 | 森 俊彰 |
| 森川 彰子 | 森川 晋吾 | 森田 絵万 | 安井 幸藏 | 柳 利男 | 柳澤 和裕 | 柳原 崇 |
| 矢野 浩一郎 | 矢野 智紀 | 山尾 令 | 山川 ありさ | 山川 日出雄 | 山口 孝太郎 | 山口 力 |
| 山崎 節正 | 山田 大介 | 山田 敏子 | 山田 晴生 | 山田 昌樹 | 山中 寛紀 | 山本 順一郎 |
| 山本 千廣 | 山本 祐歌 | 山本 美子 | 梁 裕昭 | 横井 喜代子 | 横内 定明 | 吉江 康二 |
| 吉田 一亮 | 若槻 明彦 | 脇田 慎司 | 早稲田 勝久 | 渡邊 栄三 | 渡邊 大輔 | 渡辺 貴昭 |
| 渡邊 寿則 | 渡邊 一司 | 渡邊 慎 | | | | |

(匿名 158件：五十音順)

<法人・団体>

| | | |
|------------------------|----------------------|------------------|
| 一般財団法人愛知医科大学愛恵会 | 愛知医科大学医学部後援会 | 愛知医科大学看護学部同窓会 |
| 愛知医科大学看護学部父母会 | 一般社団法人愛知医科大学同窓会 | 愛知医大サービス株式会社 |
| あいち尾東農業協同組合 | 朝日機器株式会社 | 安藤建設株式会社 |
| 医療法人社団生き生き会 | 医療法人相生会稲川耳鼻咽喉科 | 医療法人H&H |
| 株式会社エバ | 株式会社エフエスナゴヤ | オオサキメディカル株式会社 |
| 株式会社オーテック環境システム事業部中部支店 | 株式会社大林組名古屋支店 | 株式会社カーク |
| 鹿島建物総合管理株式会社中部支社 | 川重冷熱工業株式会社 | 医療法人社団喜峰会東海記念病院 |
| 医療法人社団京愛会 | 株式会社きんでん中部支社 | 医療法人久和会 |
| 医療法人櫻の森 | けんこう長寿株式会社 | 株式会社コアズ |
| 医療法人絺心会 | 医療法人香徳会 | 株式会社サーティーフォー |
| 医療法人幸会 | 医療法人社団さかいファミリークリニック | 株式会社桜木不動産コンサルタント |
| 三機工業株式会社中部支社 | 三友電子株式会社 | シーアンドエス株式会社 |
| 株式会社シーエナジー | 有限会社シーメディックス | 医療法人篠崎医院 |
| 株式会社篠田商会 | 医療法人湘山会眼科三宅病院 | 医療法人勝心会芳賀クリニック |
| 医療法人如水会 | 医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック | 有限会社シルバーホームほのぼの |
| 医療法人スズムラ眼科医院 | 医療法人すまいる皮フ科クリニック | 星光ビル管理株式会社 |
| 積水メディカル株式会社 | 株式会社セレスポ名古屋支店 | 株式会社ソラスト名古屋支社 |
| タイガー総業株式会社 | 医療法人社団大誠会 | 医療法人もみじ会田崎医院 |
| 株式会社タスクフォース名古屋支店 | 株式会社田中葬具店 | 中部連合読売会 |
| TMES株式会社 | 電子システム株式会社 | 東京音楽工業株式会社 |
| 株式会社トーエネック | 医療法人幸信会とみやす整形外科クリニック | 豊田信用金庫 |
| 株式会社トラム | 医療法人長尾会・ねや川サナトリウム | 中尾産業株式会社 |
| 株式会社ナカシマ | 中日本航空株式会社 | 株式会社名古屋医理科商会 |
| 株式会社名古屋銀行 | ナゴヤホカンファシリティーズ株式会社 | 医療法人にいみ歯科医院 |
| 株式会社ニチイ学館 | 日本建築検査機構株式会社 | 株式会社庭萬 |
| ネットワンシステムズ株式会社 | 株式会社馬場器械店 | 日の出衛生保繕株式会社 |
| 医療法人平竹クリニック | 医療法人福智会 | 医療法人福智会すずかけクリニック |
| 医療法人福友会 | 不二印刷工業株式会社 | 富士産業株式会社 |
| 医療法人社団崇仁会船戸クリニック | 医療法人ふれあい会 | 株式会社堀場測量設計 |
| 株式会社マイナビ | 三浦工業株式会社春日井支店 | 医療法人美衣会衣ヶ原病院 |
| 三菱電機ビルソリューションズ株式会社中部支社 | 村角工業株式会社 | 医療法人明眼会西垣眼科医院 |
| 名鉄バス株式会社 | 株式会社山菊 | 株式会社山岸設備 |
| 株式会社山下設計 | 医療法人行橋クリニック | 株式会社ライス加納 |
| 理科研株式会社 | 株式会社リイツメディカル | 医療法人る・ぶてい・らばん |
| 医療法人和光会 | ワタキューセイモア株式会社 | |

(匿名16件：五十音順)

寄附申込みに当たりご芳名の掲載を許諾いただいた方のみ掲載しています。

創立50周年記念事業募金寄附者ご芳名は、愛知医科大学ホームページ（創立50周年記念事業募金）においても掲載しています。

◆ 記念ロゴマークの制作

50周年記念ロゴマークは、本学の校章である橘をモチーフに、「50」を優しく包み込み支えるような橘の葉と、新たに花開くような橘の花を配しており、これからの50年もグローバルな視点を持って地域医療に貢献していくという意思が表明されています。

カラー版とモノクロ版の2種類を制作し、カラー版には「50」の文字に本学のシンボルカラーであるネイチャーブルーを使い、個性が表現されています。



◆ 記念サイトの開設

令和4年4月1日に「50周年記念サイト」が公開されました。

記念サイトでは、記念事業の内容を始め、医学部・看護学部と同窓生の皆さまからのメッセージ紹介、50年の歩み、記念式典についてなど、50周年記念事業に関する情報が幅広く発信されています。今後も、随時更新していきますので、是非ご覧ください。



創立50周年記念サイト

<URL> <https://amu-50th.com>



◆ PR広告の掲載

50周年PR広告が、令和4年5月8日（日）の中日新聞朝刊にカラー全15段広告として掲載されました。

広告デザインは、50周年のキャッチコピー「先進の医療を人と社会と未来へつなぐ」とともに、建学の精神にも謳われている、良き医療人を育て地域に役立つという目的を、地面に根差して伸びる木になぞらえています。伸びる木は、本学の校章のモチーフである橘の木が使用されています。

また、令和4年7月から12月にかけて、月毎に曜日を変えながらCBCラジオにおいて、50周年広報CMが放送されました。

An advertisement for Aichi Medical University's 50th anniversary. The main image shows a pair of hands holding a globe with a tree growing out of it. The text on the right reads '先進の医療を人と社会と未来へつなぐ'. Below the image, there is a section titled 'この地に根ざして、50年' (Rooted in this land, 50 years) with a paragraph of text. The Aichi Medical University logo and name are prominently displayed at the bottom, along with contact information and a QR code.

先進の医療を
人と社会と未来へつなぐ

この地に根ざして、50年

50年間、地域に根ざした大きな木となるよう
地域医療や臨床研究に加え、医療従事者の教育に力を注いでまいりました。
これからの枝を伸ばすとともに、
先進の医療を人と社会と未来へつないでいきます

AICHI MEDICAL UNIVERSITY

愛知医科大学 | 医学部 | 看護学部
AICHI MEDICAL UNIVERSITY | 大学院 医学研究科 / 看護学研究科

〒480-1195 愛知県長久手市新作福又1番地1 TEL.0561-62-3311(代表) 愛知医大

◆ 写真集の発行

50周年の記念誌事業として写真集及び歴史書の発行が計画されています。50周年記念写真集については、令和5年3月の刊行を目指して現在編纂中であり、写真集の刊行に先駆け、50年の歴史を凝縮した紹介パンフレットが令和4年9月が発行され、教職員・学生を始め、多くの関係者に配布されました。

また、歴史書については、「歴史書作成委員会」が設置され、令和6年3月の刊行に向けて編纂に取り組んでいます。



紹介パンフレット

◆ 記念品の作成

50周年記念事業10項目の一つでも「スターバックスの誘致」に伴い、スターバックスプリペイドカードが作成されました。教職員用は理事長から、学生用は学長からのメッセージ付きカードケースに封入

され、教職員・学生に配布されました。

また、記念ロゴマークの制作に伴い、各種記念グッズが作成され、学内外の広報に活用されています。



スタバカード



手提袋



クリアファイル



シール



封筒

◆ 式典記念品

創立50周年記念式典の招待者に対しては、記念品として、セイコー電波デジタル置時計、坂角総本舗オリジナル印判煎餅、愛知医科大学病院展示絵画カレンダー、クリアファイル、オリジナルペットボト

ルが配布されました。

また、会場受付には、50周年記念ロゴマークをかたどった立体ロゴプレートが設置されました。



デジタル置時計



印判煎餅



絵画カレンダー



ロゴプレート

編 集 後 記

☆ 令和4年度に、本学は50周年という節目の年を迎えることができました。開学記念日である11月3日に行われた記念式典には、コロナ禍にありながらも多くの方々にご出席いただき、本学への多くの期待の声寄せられ無事に式典が終了できたことは、次の50年に向けて順調な一歩を踏み出させたのではないのでしょうか。

医療の未来をひらく新しい医科大学を目指して一致団結して更に邁進していきましょう。

【総務広報課】

学報の送付を辞退される方は、総務広報課までご連絡ください。

愛知医科大学学報 号外

発行年月日 令和4年11月30日

発 行 学校法人 愛知医科大学

発 行 人 祖父江 元

編 集 人 羽根田 雅巳

連 絡 先 〒480-1195

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

愛知医科大学事務局総務部総務広報課

☎ (0561) 62-3311 (代表)

☎ (0561) 63-1063 (直通)